

# 野菜畑作生産情報 第4号

平成29年7月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆ほ場の排水対策を徹底しましょう！  
◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

- ア 生育は、おおむね良好である。
- イ 食葉性害虫が散見される。

表-1 大豆の生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/4 (早1日)	36.2 (92%)	16.9 (80%)	5.5 (-0.4)	0.4 (-0.9)
	平年	5/25	6/5	39.2	21.1	5.9	1.3
	前年	5/25	6/1	42.8	22.0	5.7	1.6
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/16 (±0日)	5/23 (早3日)	50.3 (104%)	27.7 (107%)	7.4 (+0.1)	1.6 (-0.2)
	平年	5/16	5/26	48.3	25.9	7.3	1.8
	前年	5/15	5/22	60.9	36.3	8.7	2.3

- 注) ①品種：おおすず  
②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの成績。  
③平年値は、農林総合研究所が過去12か年、野菜研究所が過去9か年の平均値。

#### (2) 今後の管理

##### ア 排水対策

大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

##### イ 中耕・培土

生育の遅れているほ場では、すみやかに中耕・培土作業を行い、生育量の確保に努める。

##### ウ 病虫害防除

食葉性害虫、アブラムシ類、べと病の防除を徹底する。

##### エ 開花期のかん水

開花期(例年7月末～8月始め頃)にはほ場が乾燥している場合は、着莢促進のため、畝間かん水を行う。畝間かん水は短時間で行い、全体に水が行き渡ったら速やかに排水する。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。

##### オ 追肥

登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、開花期の追肥を窒素成分で10a当たり5～8kg行う。ただし、生育が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は行わない。

# 野菜

## (根菜類)

### 1 ながいも

#### (1) 生育状況

- ア 生育は、萌芽揃期が平年並から早く、おおむね順調である。
- イ 病害虫は、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年)	5/25 (1日早)	6/29 (±0日)	未 (-)	151.1 (117%)	23.3 (91%)	9.4 (90%)	2.9 (69%)	6.4 (89%)
	平年	5/26	6/29	-	129.0	25.7	10.4	4.3	7.2
	前年	5/25	6/26	-	176.8	34.0	12.6	5.3	7.5
五 戸 町 (上市川)	本年 (平年)	5/ 8 (6日早)	6/ 8 (8日早)	7/12 (4日遅)	- (-)	- (-)	14.7 (85%)	6.1 (68%)	6.6 (83%)
	平年	5/14	6/16	7/ 8	-	-	17.2	8.9	8.0
	前年	5/ 6	6/10	7/ 6	-	-	21.0	10.8	8.9
東 北 町 (野田頭)	本年 (平年)	5/16 (±0日)	6/12 (2日遅)	7/10 (1日早)	- (-)	- (-)	9.9 (84%)	4.0 (91%)	6.7 (93%)
	平年	5/16	6/10	7/11	-	-	11.8	4.4	7.2
	前年	5/12	5/30	7/ 2	-	-	18.5	9.3	8.9

注) ①平年：野菜研は平成19～28年の10か年の平均値。

五戸町は平成14～28年の15か年の平均値。

東北町は平成18～28年の11か年の平均値。

②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。

東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

#### (2) 今後の管理

##### ア 追肥

- ・ 追肥が遅れると、収量や品質低下の原因となるので、適期に追肥を行う。
- ・ 追肥は、開始する目安である、つる長及び新しいも長を確認して行い、特に切いも場合は、つるの伸長が1年子や2年子より遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。

##### ① 早植栽培(頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け)

- ・ 第1回目の追肥時期は、新しいも長が5cmとなった頃を目安とし、それ以降は、おおむね12～14日おきに、第2回目、第3回目の追肥を行う。
- ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とする。

##### ② 普通栽培(頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け)

- ・ 第1回目の追肥時期は、子いもでは植付後45～55日頃、切いもでは植付後55～65日頃、つる長が200～220cmで主つるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
- ・ 第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね10日おきを目安に行う。
- ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 追肥方法

作 型 (植付時期)		早植栽培 (4月下旬～5月上旬)	普通栽培 (5月下旬～6月上旬)	
種いも		頂芽付・1年子	頂芽切除・子いも	切いも
追肥 開始 の 目安	植付後日数	60日前後	45～55日頃	55～65日頃
	新しいも長	5cm前後	10～15cm	
	つる長	150cm前後 (ネットの5分目程度)	200～220cm (ネットの8分目～頂上部)	
追肥間隔等		12～14日おきに3回 1回目：6/下～7/上 2回目：7/中～7/下 3回目：7/下～8/上	おおむね10日おきに3回 1回目：7/中～7/下 2回目：7/下～8/上 3回目：8/上～8/中	
		遅くとも8月20日には終了する。		
追肥量		1回当たり窒素成分で5kg/10a以内とする。		

### イ 病虫害防除

- ・ 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

### ウ 風水害対策

- ・ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- ・ 植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

## 2 ばれいしょ

### (1) 生育状況

- ア 生育は、いも重が平年をやや上回っており、順調である。
- イ 病虫害は、疫病の発生が一部で見られる。

表－4 ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	4/ 4 (5日早)	5/ 4 (1日早)	5/24 (7日早)	6/ 8 (3日早)	90.7 (104%)	3,791 (103%)	359 (103%)
	平年	4/ 9	5/ 5	5/31	6/11	87.0	3,689	350
	前年	3/21	4/25	5/15	5/28	79.1	4,790	486

- 注) ①平年：平成17～19年、平成21～24年、平成26～28年の10か年の平均値。  
 ②萌芽期の平年：平成17年、平成21～24年、平成26～28年の8か年の平均値。  
 ③品種：メイクイン  
 ④作型：マルチ栽培

### (2) 今後の管理

#### ア 収 穫

- ・ 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後くらいに行う。
- ・ 掘り取ったいもは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。
- ・ 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るか抜き取り、いもの表皮をコルク化させてから収穫する。

#### イ 病虫害防除

収穫まで期間がある場合は、曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。

### 3 ごぼう

#### (1) 生育状況

- ア 生育は、は種作業が遅れたため、草丈、葉数が平年を下回っている。
- イ 病害虫は、アブラムシ類の発生が見られる。

表－5 ごぼうの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	5/12 14日遅	50.5 (78%)	3.5 (92%)
	平年	4/28	65.0	3.9
	前年	4/24	93.1	3.6

注) ①平年：平成19～28年の10か年の平均値。  
②品種：柳川理想

#### (2) 今後の管理

- ア 病害虫防除  
黒斑細菌病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- イ 追肥  
追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

### 4 夏だいこん

#### (1) 生育状況

- ・ 生育は、出芽が良好で、順調である。

表－6 夏だいこんの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
平 川 市 (善光寺平)	本年 (平年比)	6/30 (-)	4.3 (-)	1.7 (-)	- (-)	生育観測は設置場所の 標高：約700m
	平年	-	-	-	-	
	前年	7/11	-	-	-	

注) ①本年から作期を変更したため、平年値なし（7月中旬は種を6月下旬は種に変更）  
②品種：盛夏土心（前年も同じ）

#### (2) 今後の管理

- ア 病害虫防除  
軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 排水対策  
台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

#### (果菜類)

### 5 夏秋トマト（雨よけ栽培）

#### (1) 生育状況

- ア 生育は、6月の気温が低めだったことから緩慢となり、平年並からやや遅れている。
- イ 収穫始めはおおむね平年並で、現在第2果房の収穫中である。
- ウ 着果負担による草勢の低下や中位葉の葉先枯れのほか、落花が見られる。
- エ 病害虫は、灰色かび病の発生が多い。

表-7 トマトの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1 段花房		3 段花房		5 段花房		収穫 始め (月日)
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	
五所川原市 (藻川)	本年 (平年比)	5/ 4 (1日早)	5/ 7 (4日早)	3.2 (100%)	5/27 (6日早)	3.4 (106%)	6/16 (4日早)	1.8 (67%)	6/25 (1日遅)
	平年	5/ 5	5/11	3.2	6/ 2	3.2	6/20	2.7	6/24
	前年	5/ 1	5/12	3.5	5/27	2.4	6/11	1.7	6/24
三戸町 (斗内)	本年 (平年比)	5/11 (6日早)	5/25 (3日早)	3.6 (100%)	6/19 (2日遅)	3.4 (103%)	7/ 2 (3日早)	— (—)	7/ 3 (8日早)
	平年	5/17	5/28	3.6	6/17	3.3	7/ 5	2.8	7/11
	前年	5/12	6/11	3.6	6/28	2.8	7/17	3.3	7/28

注) ①設置場所：五所川原市は、本年から藻川に変更（前年まで金木）。

②平年：五所川原市は参考値（五所川原市金木の平成16～28年までの13か年の平均値）。

三戸町は平成20～28年の9か年の平均値。

③品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）（前年に同じ）

三戸町はりんか409（自根）

## (2) 今後の管理

### ア 追肥・かん水

- ・ 追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。
- ・ 液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいに行う。
- ・ かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。
- ・ 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。
- ・ 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

### イ 温度管理

ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

### ウ 病害虫防除

- ・ ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。
  - ①換気を行う
  - ②通路にマルチを敷く
  - ③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する
  - ④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める。
- ・ 農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。
- ・ 今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

## 6 メロン

### (1) 生育状況

ア トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育はおおむね順調である。

イ 病害虫は、べと病、アブラムシ類が散見される。

表－8 メロンの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主 づ る 長 (cm)	主 づ る の 葉 数 (枚)	着果期 (月日)	収穫期 (月日)
つ が る 市 (木 造)	本年 (平比)	5/ 1 (6日早)	205.3 (95%)	25.8 (104%)	6/12 (5日早)	— —
	平年	5/ 7	216.1	24.8	6/17	8/1
	前年	5/ 7	207.6	25.5	6/17	8/1

注) ①平年：平成26～28年の3か年の平均値。

②品種：タカミ

(2) 今後の管理

ア 萎れ対策

遮光資材を活用し、高温による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

イ 適期収穫

- ・ 収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。
- ・ 収穫が遅れると発酵果や裂果が発生し、貯蔵性の低下につながるので十分注意する。

ウ 病害防除

やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

7 ね ぎ

(1) 生育状況

ア 生育は、3月下旬定植では、平年より10日以上早い7月中旬に収穫期に達しており、4月下旬定植では、6月の気温が低めだったことから、草丈、茎径が平年を下回っている。

イ 病虫害では、べと病、アザミウマ類の発生が見られる。

表－9 ねぎの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	収穫期 (月日)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平比)	12/27 (20日早)	3/25 (2日早)	103.5 (104%)	23.6 (115%)	7/11 (14日早)
	平年	1/16	3/27	99.4	20.6	7/25
	前年	1/10	3/18	112.5	22.0	7/21
十 和 田 市 (深沢平)	本年 (平比)	1/25 (25日早)	4/25 (5日早)	64.2 (88%)	13.7 (88%)	— —
	平年	2/19	4/30	72.6	15.6	9/24
	前年	2/26	4/20	82.4	17.4	9/27

注) ①平年：八戸市は平成15～28年の14か年の平均値。  
十和田市は平成17～28年の12か年の平均値。

①品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

べと病、黒斑病等の発生が懸念されるので、早期発見に努め、各病虫害に効果的な薬剤を選択し、防除を徹底する。

イ 培土・追肥

- ・ 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。
- ・ 最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにする！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直通	017-734-9481

---